

皆さん、こんにちは。令和3年度、新学期が始まりました。

昨年度3学期の終業式では「年輪」の話をしましたが、年輪には時間が刻まれています。ところで、「時間って何？」って、もし、チョコちゃんに聞かれたら、なんて答えますか。どうでしょうか？

世界でもっとも読まれている本は聖書と言われますが、「旧約聖書の創世記」によると、主たる神は6日間かけてこの世を創ったと言われていています。全知全能の神のすごいのは言葉を発するだけで現実になることです。混とんとした暗闇の地で主たる神が「光あれ」と言うと光が現れ、光と闇とに分かれました。光を昼、闇を夜と名づけ、夕となり朝となって天地創造の一日目が終わりました。昼と夜が交互に現れ、時が刻まれ始めたというわけです。

万有引力の発見で有名なイギリスの科学者アイザック・ニュートンは「宇宙のどこに置かれていても、すべての時計は、無限の過去から無限の未来まで変化せずに同じペースで同じ時間を刻む」と考えました。これは「絶対時間」と言われ、「時間は常に一定の速さで流れる」という概念が常識として定着しました。皆さんもそう考えていると思います。

ところが、この常識をくつがえす理論を創り上げたのがドイツの物理学者アルベルト・アインシュタインです。アインシュタインの2つの相対性理論によると、

「運動している物体は時間の流れが遅くなる。」

「強い重力を受けるほど、時間の流れは遅くなる。」

というのです。「時間は一定ではなく伸び縮みする」という考えはなかなか想像しがたく、信じがたいかと思います。私たちが日常的に経験する運動速度は光の速さ(秒速30万キロメートル)に比べてずっと小さいですし、重力の変化もきわめて小さいです。このため時間の伸び縮みはあまりにも小さく、私たちは気がつかないのです。しかし、世界標準時の基準となる原子時計やGPS衛星の原子時計などはその時間のずれを補正しないと使い物にならないそうです。

ちょっと分野をかえて、心と体に流れる時間(体内時計)に着目すると、多くの大人が、「子供の頃は時間が長かったのに、大人になると時間はあっという間に過ぎ去ってしまう」と感じている、と良く言われます。また、楽しいことをしている時は時間の過ぎるのが早いと感じている人も多いと思います。

このように、「時間とは何か」といざ問われると、物理学・宇宙論・心理学・生物学・哲学など、それぞれの分野の切り口があり、なかなか一概には説明しきれず、今なお「なぞ」といえます。

ただ、時間は無限ですが、皆さんの高校生活の時間は有限です。そう考えれば「時間」というのは貴重なもの、過ぎてしまえば取り戻せないものと言えます。

新学期を迎え、ぜひこんな「時間」を大切にしてほしいと思います。遅刻をしている人がいたらもったいない、後れを取ってしまっていると考えてください。

そして、3年生の皆さんは1学期いろいろあって加速度的に時間が過ぎていきますので、自分の進路実現に向けて悔いのないように最終学年の年輪を、2年生の皆さんは毎日の授業を大切に基礎がためをしっかりと行い、高校2年の年輪をそれぞれ刻んでください。

最後に、3月25日に本校が関係する高校再編整備計画【二次】案が公表され、びっくりした人もいるかと思います。山ノ内町、中野市から須坂市にかけては旧第2通学区とよばれ、急速に進行

する少子化の中で、中野市の2校が学びの質を維持するために今後再編統合が必要になってくるということです。ただし、現在の皆さんの中野西の学校生活が大きく変わるというわけではありません。これから新しい学校づくりの話が始まるということを承知しておいてもらえればと思います。

それでは、皆さんのこれからの頑張りに期待し、1学期始業の挨拶とします。終わります。